

ふかまちのまど

第一六号 〇四年〇一月一日
発行元 深町町内会連合会
連絡所 西本一三三

年頭のご挨拶

深町町内会連合会
会長 西本 一三三

新年明けましてお目出とうございませう。
昨年、町内行事に對しましては、連合会役員を初め各団体役員の方々、町民の皆様方には多大のご協力を頂き、すべての年間行事が無事に終え、新年を迎えることが出来たことは、町民の皆様方の深いご理解の賜物と心より感謝申し上げます。
今年も町内会連合会の活動は恒例の諸行事への取り組みと町内全体の課題を解決するため活動を進めたいと考えています。
当面する課題の取り組みは、国道三原尾道線、車道の増加にともない歩行者、自転車等の通行が困難で、子供の通学にも危険が大きい人命にかかるとして、歩道の設置をし、子供の通学、付近の住民が安心して通行出来る、日々の生活の不安を解消して行くために、市、県と地元の関係者の皆様のご理解を頂き建設の実現をめざして頑張っております。
行く所存ですので、町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶と致します。 ▲



深小だより

お待ちしております

深小学校長 飯本幸子

明けましておめでとうございませう。
昨年十二月二日に、深小学校六九名幼稚園七名の子どもたちは全員元気で二期の終業式をしました。
二期も学習発表会・地域参観日・研究会と深町の皆さんの応援をいただき、盛会裏に終えることができました。ありがとうございます。
年が明け、新春ふれあい広場が待っています。尚寿会をはじめ皆さんの協力を頂いて一月二十四日(土)にとんどの組み立てをしたいと考えております。二十五日が新春ふれあい広場です。

町内会連合会活動報告

歩道整備要請(十二月十一日)
中組千川地区の歩道未整備部分について、県尾三地域事務所工務課長に對して要請しました。県は、公共工事予算が毎年二割カットで非常に厳しいとのことでした。しかし、緊急度の高さによって考慮したい由です。



※先月(一一五号)の町内会連合会活動報告で次のとおり一部誤りがありました。お詫びして訂正します。

(誤)
市文化スポーツ課の宮里係長(正)
市文化スポーツ課の延里係長(事務局) ▲

尚寿会だより

尚寿会会長 幸谷 満夫

忘年会(十二月四日)
三次市の長寿村にて入湯と会食をしました。
深町を九時出発し、十時半に長寿村到着。早速六種の湯に浸り、十一時半から十五時まで、芝居と歌と踊りを楽しみながら年忘れの会食としました。
帰途には三次ワイナリーに立ち寄りしました。
参加者は新規入会者四人を加えて二四人でした。 ▲



例年のように餅つきや児童会の行事、太鼓踊り、バザーなどします。バザーの出品へもご協力をお願いいたします。
子どもたちも楽しみにしています。どうぞおいでください。お待ちしております。 ▲

契約トラブルの解決のために(1)
広島県生活センター
082-223-6111

1 契約について
暮らしの中の契約を購入し、消費したり使用したりして暮らしています。このような日常生活の営みのほとんど全てが契約によって行なわれます。
2 契約とは
契約は権利義務に関する約束事です。当事者双方の意思の合致、すなわち合意があれば口約束でも契約として成立しますが、期間が長期にわたるものや高額な取引などは当事者双方が契約内容を確認できるよう契約書を作成して、合意した内容を証拠として残しておきましょう。

※広島県生活センターの資料により随時掲載します。
(ふかまちのまど 編集室) ▲

車を買う (売買契約)
部屋を借りる (賃貸借契約)

愛 Love peace コンサート

◇日時 1月18日(日) 13時30分より
◇場所 深小体育館 ◇主催 深町友好会

キーボードミュージシャン堤友彦君とお母さんをお迎えし、コンサートを開催します。転落事故による全盲、右手麻痺の堤君が奏でるキーボードと透き通った声の歌、そして母恵子さんのふれあいトークをお楽しみください。堤君は府中市の出身で、1998年に「24時間テレビ」にも出演しています。“感動をあなたに”お待ちしております。

深町各種団体一月行事予定

◆町内会連合会	市ビーチボールバレー大会参加	十八日
◆尚寿会	◆新年会(あやめ荘)	十五日
◆消防団	◆消防出初式・総会	十一日
◆小学校・幼稚園	◆始業式	七日
◆集金日	◆お楽しみ会(◎)	八日
◆貯金日	◆諸費・雑費集金◎	九日
◆参観日◎	◆冬季学園説明会	十三日
◆英語活動	◆租税教室	十四日
◆新春ふれあい広場	◆ぴよぴよハウス◎	十五日
◆テーマタイム		二十日
◆女性会		二十五日
◆懇親会		三十日
	上 第三水曜	
	中 第一月曜	
	下 第二日曜	

展望席

日本の景気もかすかに明るさが見えてきたように思われますが、先行き不透明。ジャンボ宝くじに夢を託してもはかない夢。どこかに「金」のなる木はないものかと思っていたところ、「金」のなる木は、ヤル木(気)とコン木(気)だ。それにはナニクソという肥料をやらなければならぬ。と、新潟県にある永林寺の住職がNHKラジオで話しておられました。ふと気が付いてみると、「気」というものは目には見えませんが、たいそう大切なもののように思えます。

友達と久しぶりに会うと「お元気?」、別れる時は「元気でね! 気をつけてね!」と、たいのい人が言います。「健康?」「健康でね!」とは言いません。天の気が悪いと、農作物のできが悪いだけでなく、米泥棒というオマケまでついてきます。空の気がなくなると、たちまち生きて行けません。

気が短い、長い、強い、弱い、良い、悪い、付く、付かない等々、気の持ち方や気の配り方、さらには気の流れや動きで、その人の人生や周りの人との人間関係、世の中の情勢、景気等にも少なからず影響があると思えます。

何はともかく元気が一番。そして、日頃気にとめていないような、小さなことに感動し、小さなことに喜び、感謝しながら、氣力を充実して陽気に今年も過ごせることを願っています。

生きがいの 充実を求めて (2)

元深小学校長 帯賀 信義

三原市では「潤いある人生と豊かな暮らしを実現する都市を指して「いきいき21」を生産学習推進の基本にすえて取りこんでいるところだ。」

市民一人ひとりが現代社会をより豊かに生きぬくための「心」の問題と「力」の問題を考え、心と力を培う必要があります。

このたびは「心」の面から考えてみたいと思います。

潤いある人生は、健康保持増進することを基に「生きがいの充実」が重要であります。

「生きがい」とは何でしょう。私「働きたい」「遊びたい」「遊びたい」など「やりがい」の総和であると考えています。

この「生きがい」をどう導き出すか。それは、先ず自ら、認められる行為、行動することです。人は、認められることによつて生きがいが生じるものです。そのためにも、認め認められる関係を構築することが大切だと思えます。

ある方がこんなことを言われました。

私の地球サミット (最終回)

中組 安藤 志保



《アフリカ・サミット。私たちの未来》

この地球サミットからすでに一年以上経ちました。地球環境の現状は、ますます深刻になっています。このサミットの成果は、果たしてあったのでしょうか？

大切なのは、会議で何が決まるか、ではなくて、私たち一人ひとりがどうするか。

そう、サミットの成果は、参加した私自身が、ここで、何をかんじたか、そしてそのつかんだことをどう伝えるか、そしてまた、それを伝えられた人がどうするか。サミットの成果は、まだ出ていない、これからなのです。これを読んでもう一度みよ。これを読んでくださつたみなさん、お一人おひとりが、どうしていか、サミットの成果であり、未来を築いていくことになるのです。

「先生、私はゲートボールをやめました。うまくゆかないのです。失敗すれば、周りの人から怒鳴られたり、叱られたりして面白くありません。もう七十歳になろうとしていのに、他人から、叱られたり、侮蔑されるのはつらくてね。もう、あんなゲートボールはしたくありません。」

私は、この話を聞いて、最近ゲートボールの同好人口が増え、てきていますが、本来の生きがいづくりのためのゲートボールが薄れ、どちらかといえば、競争に変わってきているのではないかと感じました。



生涯学習は、基本的には、市民が生産に亘つて「いつでも一人ひとりの生きがいを支援することにあると考えています。ゲートボールの普及は生きがいを支援するものとして、できたものであると私は捉えています。このゲートボールを通して共に力を合わせ、上手な人、不得意な人、など、いろいろな人がいることの違いを認め、お互いが支え支えられる人間関係、信頼関係をつくるのがねらいだと思つていきます。こういう関係づくりができれば「やめたい」ということにはならないと思います。高齢者の生きがい活動は、気持ちの問題が大きく左右します。安心、安定した優しさの中にあります。

NGOでの活動を始めるまで、様々な社会問題に対する漠然とした不安を持っていた私ですが、今は違います。

自分が変われば 世界が変わる

言葉だけを読めばそれは当り前のことなのですが、それは自分の中でイメージした時、無限の可能性を感じました。この言葉との出会いが、活動のスタートです。不安な要素の多い今の社会ですが、みんなが変える気にさえなれば、変えることは、カンタンなのだと思えます。

私達が本来与えられたものの大きさと素晴らしさを感じさせてくれたアフリカ。すべてを包み込むような大自然、人々のルーツのエネルギー、アパルトヘイトを廃止したパワー。でもそこには同時に深い悲しみ。飢餓、エイズ、水不足、貧困、お金の問題があります。それらをなくしていくための「地球市民国連」世界規模での市民ネットワーク、そのために何かができる自分の発見、大きな希望が生まれたツアーでした！

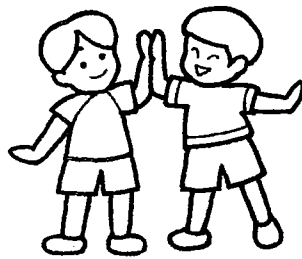
つぎの詩を読んでください。

「人間」

他人の成功をねたむいやしい心
他人の不幸をひそかに喜ぶ、
貧しい心
自分より下にくる人がいること
によつて感じる優越感

いや 違うのです。
困っている人がいれば
手をさしのべます
泣いている人がいれば
共に泣けるのです
人は だれでもやさしいのです
人は だれでも暖かいのです
冷たい人なんか一人もいません
みんな人間 同じ人間

私たちは、お互いに人を信じ相手の気持ちを大事にする心をもちながら 人生を送りたいものです。



短歌・俳句・詩

美土里町神楽三題

中組 竹内 博満

秋空に神楽囃しの響きいて
はや浮き浮きと妻は楽しげ
煙びやか神楽装束身に纏い
きりりと若者舞台待ち居る

華やかな神楽の舞台眺めつつ
習いし歴史を思い浮かべぬ

前回の短歌で一字誤字が有りました。「夜勤明け眠れる」の「る」が「ぬ」になっていました。私の原稿の不確かさで意味の違う短歌になってしまいました。お詫びします。短歌や俳句にとつて一字の大切さが身に沁みしました。

夜勤明け眠れる妻に響きぬ
来世も吾と出逢いくれよと

隨筆 一里塚

中之町 河野 強

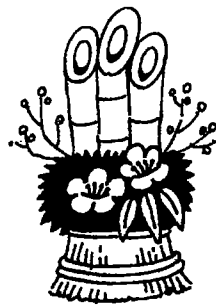
門松は眞土の旅の一里塚 芽出たくもあり 芽出たくもなし 一休禅師の歌である。

年齢を重ねるたびに一年が早く過ぎ、正月が早く来るような気がしてならない。子どもの頃は正月が来るのがいやに遅く感じたものである。

今頃のようにお年玉なんて知らなかつたし、お正月には親が何かを買ってくれるものとはかり思つていた。

お母さんと一緒に寝床の中で、「お正月にはお母さん、あれも買つてよ、あれもよ」あーよしやよしや、よう手伝うてくれたし勉強もようやつたけえ、買うちやるよ」という言葉を聞いて安心して、(もう幾つ寝ると正月だ、早く正月が来んかのー)と子ども心にそればかり楽しみにしたものである。正月を迎えるたびに懐かしき思い出される。

お爺さんは正月三ヶ日、毎朝早く起きて神様のお祭りをして大根の酢の物とウルメを二匹お供えし、御神酒をお供えし御祓をあげるのが正月の行事だった。



昔は、家長は正月の間は親戚へ年始に行つても、家から三里の内だつたら決して他所の家へ泊まつてはならない、幾ら遅くなつても必ず帰つて来ることになつていて、家をあけてはならないことだった。

今はもう時代もかわり、考えることも変わり、正月こそゆつくり海外でとか、国内では一家そろつて連れ立って温泉へ泊まりこみで行くとか、全く想像もしなかつたことである。

正月だから玄関へしめ飾りを飾り付け、心も新たにしてください。か、まるで逃げるようにそそくさと外出する時代になり、何とも言いようのない気持ちだ。

これ、不況の世の中とはいへ平和な世の中ということだ。うか。芽出たく思いをかえて、なんとか次の年の正月、一里塚を立てられるよう、今年こそ健康ですごしたいものと、元旦の初日の出を拝んだ。